氏名	添田啓子	部署	看護学科	職名	教授
研究分野	小児看護学				
学位	博士（看護学）				
学歴	1980年聖路加看護大学看護学部、1992年聖路加看護大学大学院研究科（博士前期課程看護学専攻）、2005年兵庫県立看護大学大学院看護学研究科博士後期課程.				
経歴	1986年聖路加看護大学助手、1993年埼玉県立衛生短期大学看護学科講師、1999年埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科講師、2005年同助教授、2008年同教授。2015年文部科学省専任教員資格審査博士後期課程D〇合				
所属学会（役職）	日本小児看護学会（理事、評議員、専任査読者）、日本小児保健協会、看護科学学会、日本看護学教育学会				

【2016年度実績】

1．研究業績

	著作・論文・学会発表等の名称	単著・共著の別	(1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ (3)学会名、開催都市	(1)(2)著者、編者名 (3)発表者（発表者は〇印）	発行・発表年月
（1）著作					
1	該当なし				
（2）論文					
1	小児医療施設におけるオレムセルフケア不足理論の看護過程への活用状況	共著	日本小児看護学会誌,25巻,3号,pp17-23,	櫻井育穂,勝本祥子,添田啓子,西脇由枝,田村佳士枝, 望月浩江,松本宗賢,株﨑雅子, 近藤美和子,久保良子,黒田京子.	2016
（3）学会発表					
1	オレムセルフケア理論を取り入れた実践を促進する看護記録監査表の作成	共著	日本小児看護学会第26回学術集会,別府. 抄録集p.283.	櫻井育穂、田村佳士枝、望月浩江、添田啓子、西脇由枝、松本宗賢、勝本祥子、岡崎智美、株﨑雅子、近藤美和子、長場美紀、久保良子、黒田京子	,2016.7.24
2	オレムセルフケア理論を取り入れた看護実践を促進する教育介入の効果 -リフレクションから捉えた看護実践の変化-	共著	日本小児看護学会第26回学術集会,別府. 抄録集p.284.	添田啓子、望月浩江、松本宗賢、田村佳士枝、櫻井育穂、西脇由枝、勝本祥子、黒田京子、久保良子、株﨑雅子、近藤美和子、岡崎智美、	2016.7.24
3	オレムセルフケア理論を取り入れた事例検討会の成果 -事例検討内容と参加者の認識の変化から-	共著	日本小児看護学会第26回学術集会,別府. 抄録集p.285.	近藤美和子、株﨑雅子、岡崎智美、久保良子、黒田京子、添田啓子、田村佳士枝、西脇由枝、櫻井育穂、望月浩江、松本宗賢、勝本祥子	2016.7.24
4	2016こどもセルフケアカンファレンス-こどもの力を引き出す看護を創りだそう一	共同	日本小児看護学会第26回学術集会,別府. 抄録集p.76.	片田範子,及川郁子,勝田仁美,加藤玲子,添田啓子,中野綾美、原朱美,河俣あゆみ	2016.7.24
（4）その他					
1	該当なし				

2．競争的資金等の研究

	競争的資金等の名称	研究名、研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	科学研究補助金基盤C	親のケア能力・子どものセルフケア能力獲得を支援する看護師の教育・指導力の発展、研究代表者	2016-2018
2	科学研究補助金基盤A	オレムセルフケア理論を基盤とした「こどもセルフケア看護理論」の構築、研究分担者	2014-2017

3. 教育業績

	講義・演習・実習・論文指導等の名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
（1）講義			
1	大学院博士後期課程　次世代育成看護論	前期　2コマ	学生の研究領域に合わせて小児看護の質的研究の文献を紹介し、質的研究の研究プロセス、研究意義、研究方法等について、説明・討議した。
2	大学院博士前期課程「保健医療福祉研究法特論」の質的研究法	前期6月（4コマ）	保健医療福祉の研究のうち質的研究法について、その特徴、適する研究課題、研究方法について概説した。データ収集方法として、インタビューと分析について、文献抄読の演習を行った。学生はグループで模擬インタビューを行い、そのポイントを確認したことで、質的研究のデータ収集と質的研究の意味について、理解できたと述べていた。
3	大学院博士前期課程看護学専修 看護理論	前期	科目概要：まず、自らの看護観・看護実践を振り返り、グループメンバーと討議し、看護とは何かを検討し、看護理論を学ぶ意義を確認する。次に看護理論が構築される背景を理解し、要素、主要概念、理論構造について学ぶ。臨床で使われる看護理論について学び、理論を用いて実際に事例分析を行う。さらに、ナイチンゲール看護論、意図的な看護実践を行うために活用する方法を学ぶ。また、理論をつかった看護の可能性を検討する。 添田は科目責任者として、全体の企画運営を行った。また、リフレクション講義・演習（2コマ）、オレムセルフケア不足理論講義（1コマ）、理論を用いた事例分析グループワーク演習（3コマ）、レポート評価を担当した。
4	看護学科1年次小児看護学Ⅰ総論	後期6コマ	小児看護学の総論として、小児看護の目的・対象・方法、こどもをめぐる社会の現状、小児看護の根拠法令、こどもと家族、こどもの権利擁護、こどもの成長発達と発達評価 、発達年代による生活、こどもの健康課題、予防接種等について、アクティブラーニングの手法を取り入れて講義した。
（2）演習			
1	学部看護学専門科目4年次 こどもと家族のヘルスプロモーション	前期	子どもと家族の健康課題について、グループの課題学習をするための事例を作成した。学生は課題事例を通して、子どもと家族の課題状況を分析し、健康の促進・または改善をするために必要なことをグループで検討・発表で共有した。
2	学部看護学専門科目2年次 小児看護学Ⅲ	後期	免疫力の未熟な乳児が下痢嘔吐を伴う急性消化器感染症に罹患し、重度の脱水により入院し、検査・処置・入院をする事例を用いて、PBLチュートリアルで、事例の対象理解と発達像・健康像・生活像の把握、全体像の把握、回復を促す看護の方向性の検討を行った。
3	学部看護学専門科目3年次 小児看護学Ⅳ	前期	小児看護学Ⅲで学んだ事例を用いて、小児看護に必要な技術演習を行った。
（3）実習			
1	小児看護学実習	後期11-12月4年次	子どもの病気・障害や療養の状況に合わせて、生命力の消耗を最小限にし、健康に向けて生活過程を整える看護を実践する。また、子どもとともに子どもの療養を支える家族も看護の対象ととらえ支援する。これらの実践を通して子どもの対象特性を理解し、子どもの看護に必要な知識・技術・態度を修得する。
2	総合実習	前期7月	既習の知識やこれまでの看護実践を踏まえて、看護学における自己の学習課題について看護活動を通して探求し、専門職者に求められる総合的な看護実践能力を身につける。添田は小児看護領域の総合実習の運営と、特別支援学校の実習に関わった。
3	IPW実習	10月	IPW実習の目的に応じて、4年次学生5名を指導した。
（4）論文指導			
1	博士後期課程	2016.4～2017.3	副指導：2名
2	博士前期課程	2016.4～2017.3	主指導：1名　副指導：1名
3	学部	2016.4～2017.1	3名
（5）その他			
1	看護学科1年次生担任長　担任	2016.4～2017.3	1年次生137名の担任長として、学生指導と教員の相談に乗った。担任学生23名の学習指導と生活相談に乗った。
2	大学院博士前期課程論文審査　主査	2016.10-2	1名

4. 社会貢献活動

（1）講演会、研修会等の講師

	講演会、研修会等の名称	主催	講演、研修等のテーマ	開催年月
1	看護学生実習指導者講習会	埼玉県看護協会	小児看護学実習の展開	2016.6

2	埼玉県看護協会第9支部第26回看護研究発表会講評	埼玉県看護協会第9支部	発表された研究の講評	2017.1.28.
3	オレム推進会議活動報告会　講評	埼玉県小児医療センター	発表された活動の講評	2017.2.23.

（2）国、自治体、財団法人等における委員等

	国、自治体、財団法人等の名称	委員等の名称	任期
1	一般社団法人日本小児看護学会	学術研究推進委員会、研究奨励賞選考委員	2015.11-2016.7.
2	埼玉県教育局県立学校特別支援教育課	看護教員研修会講師	2016.12.26.
3	一般社団法人日本看護系大学協議会	教育評価委員会委員	2016.8.22-2018.6.

（3）ジャーナリズムでの発言

	メディア等の名称	内容	年月
1	該当なし		

5. 学内運営（委員会委員）

1	教育開発委員会委員
2	看護学科カリキュラム検討会

6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）

	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		

7. 特許の保有状況

	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		

8. 特記事項

該当なし